

蘇生、搬送用ベンチレータ new Pneu PAC Model 2R

蘇生用ベンチレータは現在、各社独自の特徴を持つ多種多様な機種が普及している。われわれは、軽量、小型で酸素消費量の少ない new Pneu PACを蘇生用のみならず、CT室への患者搬送用、およびCT施行時の人工呼吸用として、よく利用している。

今回は new Pneu PAC, Model 2 を改良した、new Pneu PAC, Model 2R を使用したので紹介する。

本器は、Pneu PAC社製(英国)の人工呼吸器で、外装は今までと同型のポリフェニレンオキシド(P. P. O)樹脂製で、耐火性、耐久性に富むとともに総重量はわずか1.3Kgと軽量である。外寸法も6(縦)×9(横)×18cm(奥)と小型で、タイムサイクルボリュームタイプのベンチレータ/レサシテーターである。構成品としては本体(モジュール)、患者バルブ、接続ホース、の3点から成り、緊急用、救急蘇生用ベンチレータの条件である、分解出来ない事、想定されるあらゆる環境のもとで作動する事、部品数が少ない事等をクリアーしている。

NATOの過酷なテストに合格(NATO カタログNO. 6530-99-211-6427)したことがこれを裏付けている。

換気量は340~1,450ml、分時換気量7.1~16.1/分、呼吸回数11~21回/分、吸気/呼気比1:1.5~1:5で可変であるが、これらの条件はあらかじめ本体のプログラミングで決定されており、使用者が操作するのは、一回換気量を設定するのみである。したがって両手で患者バルブに装着したマスクの顔面への密着と気道確保がはかれるという利点がある。

蘇生用として優れている点として、新型の2RではC. P. R. を行なう時の換気に関する現在のAmerican Heart Association(A. H. A)の standard に合致するよう仕様変更されたことがあげられる。すなわち、成人の場合はハートのマークにコントロールノブ

を合わせれば、一回換気量900ml、換気回数13回/分、誤差±10%でA. H. A. の推奨する、一回換気量800~1200ml、胸骨圧迫心マッサージ(E. C. C.) 80~100回/分の条件に設定される。

医師以外の使用にとっても、ハートマークというひとつの目安が出来、呼気終息より次の呼気までの間に五回の胸骨圧迫心マッサージを行えば80~100回/分の胸骨圧迫心マッサージが出来ることとなる。

患者バルブも本体と同じP. P. O. 樹脂製で80gと軽くEOG滅菌、薬品、オートクレーブにも耐久性は十分である。患者バルブには安全弁が付き40cmH₂Oで作動するが同時に警報音を発する。これも医師以外の使用者にとって有用となるであろう。また我が国の救急車の装備としてDemand Valveが普及しているが、Demand Valveと比較して酸素消費量は少なく、簡単な訓練で効果的に蘇生が実施できるため日本の救急車向きといえることができる。通常では100%酸素による人工呼吸であるが、オプションとして100%-45%切替患者バルブやアダプターにより4cmH₂O、0.8cmH₂OのPEEPが可能で呼吸管理に熟知した医師の期待にもこたえる。

今回の改良により、使用出来る範囲は拡大され、麻酔ではベイン回路における麻酔用ベンチレータとして、救急蘇生、搬送については医師はもとより、医師以外の使用者にも使用範囲が拡大されたといえる。以上よりnew Pneu PAC, Model 2Rは有用な蘇生用、搬送用ベンチレータという事が出来る。

(兵庫医科大学 救急部 石田詔治)

ニューパック

"ONE KNOB"
Ventilator/Resuscitator

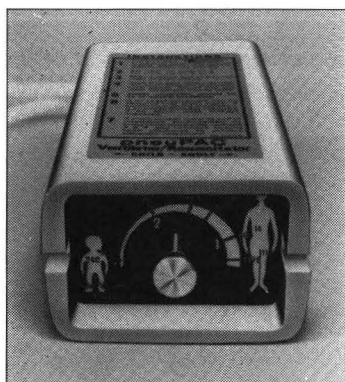
new pneu PAC
ニューパック



つまみひとつでコントロール

自動プログラム・ベンチレーター/レサシテーター：ニューパック

- **new** pneu PAC は、タイム・サイクル、ボリュームタイプのパワフルな自動プログラム・レサシテーター/ベンチレーターです。
- ニューパック には、1回換気量/呼吸回数/IE比の平均的な組合せをプログラムしてあります。コントロールは、小児から成人まで中広い内臓プログラムをこのつまみひとつでコントロールできます。
- **new** pneu PAC のコントロールユニットには、麻酔用ベンチレーターとして高い評価を得ているナフィールド200と同じ流体素子を採用。酷使に耐えます。
- ニューパック でコアキシャル回路や半閉鎖回路をドライブすれば、世界最小のボリュームタイプ麻酔用ベンチレーターになります。



メドノーバ株式会社

名古屋市名東区一社1-78(名昭ビル)
☎052-703-7501(代) 〒465

日本メディコ株式会社

名古屋市名東区一社1-87(ユトクビル4F)
☎052-701-6128(代) 〒465
営業所 東京・大阪・名古屋・岡山
福岡・仙台・札幌